

&lt;認知症対応型共同生活介護用&gt;

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670102674
法人名	株式会社 サンライトメディカル
事業所名	グループホーム やすらぎの家
訪問調査日	平成20年7月10日
評価確定日	平成20年8月11日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4670102674
法人名	株式会社 サンライトメディカル
事業所名	グループホーム やすらぎの家
所在地 (電話番号)	鹿児島市高麗町22-16 (電話) 099-285-1221
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年7月10日

## 【情報提供票より】(平成20年7月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) ( 200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1ヶ月あたり 30,000 円		

### (4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1		名	要介護2	3	名	
要介護3	4	名	要介護4	2	名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	88 歳	最低	80 歳	最高	101 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	肥後クリニック
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市中心部に程近い住宅街に建てられ、緑豊かな公園と母体のクリニックが隣接するという好環境のホームである。101歳を筆頭に、穏やかな表情の入居者と多芸多才な職員が、時に歌声も交えながら楽しく暮らしている。管理者は、入居者の高齢化に対応した支援を行うために、介護技術のさらなる向上の必要性を認識しており、関連法人同士の研修も含めて積極的に研鑽に励んでいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「思いや意向の把握」については、再アセスメントに加えて、個人記録や業務日誌などを介護計画作成に活かすなどの取り組みを実施している。「重度化や終末期に向けた方針の共有」については、統一した方針が定まり、必要書類の作成と関係者の話し合いが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に全員で取り組むことにより、振り返りの機会となっている。外部評価で指摘された改善課題については、定例会等で検討し、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は2ヶ月に1回実施している。ホームの現状および行事報告のほか、出席者からのレクリエーションの提案や活発な意見交換が行われ、検討された内容はサービスの質向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃からのご家族との関係づくりを大切にしており、意見を出しやすい雰囲気ができている。出された意見、要望等については、ミーティングで対応を検討するなど、早急に運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、日頃から隣接する公民館を利用している。週1回の道路掃除には、入居者お一人と職員が参加している。また、運動会などの地域行事に参加したり、ボランティア活動を受け入れるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らして行くことを感じていただけるように、“地域と共に”という言葉を盛り込んだ理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に確認できるようにリビングルームなどに掲示すると共に、職員のネームプレートにも記入されている。申し送りや定例会などでは、理念の実践に向けて話し合われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、日頃から隣接する公民館を利用している。週1回の道路掃除には、入居者お一人と職員が参加している。また、運動会などの地域行事に参加したり、ボランティア活動を受け入れるなど、地域との交流に積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に全員で取り組むことにより、振り返りの機会となっている。外部評価で指摘された改善課題については、定例会等で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回実施している。ホームの現状および行事報告のほか、出席者からのレクリエーションの提案や活発な意見交換が行われ、検討された内容はサービスの質向上に活かされている。		

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上の問題や些細な疑問などは、その都度福祉担当者に問い合わせている。運営推進会議メンバーに行政出身の方がおられ、連携を手助けしていただいている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「やすらぎ通信」を月1回発行しており、ホーム全体の様子に加えて、入居者個々の状況が写真入りで報告されている。金銭管理に関しては、法人本部で一括して管理されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からのご家族との関係づくりを大切にしており、意見を出しやすい雰囲気ができている。出された意見、要望等については、ミーティング等で対応を検討するなど、早急に運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	このところ職員の異動は無く、馴染みの職員によるサービスが提供されている。やむを得ず異動がある場合は、時間をかけて引継ぎし、違和感無く受け入れていただけるように馴れた職員と同行するなどして配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連法人の事業所同士で研修資料づくりを分担しており、積極的に研鑽している。また、ホーム内においても、日頃の気付きを基に定例会等で検討するなど、熱心な取り組みがなされている。職員の段階に応じて育成するための研修計画等は、今のところ策定されていない。	○	職員の知識や経験、習熟度に応じて、段階的に育成するための計画的な研修を実施し、さらなる質の向上を目指していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流や、関連法人の事業所間での定期研修会や親睦会での交流機会が多く、職員同士も積極的に交流している。		

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から本人とご家族に見学していただき、他の入居者や職員との関係づくりを行い、納得し安心して生活が始めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、調理の仕方や味付けを教わるなど、日常の関わりを通して常に学ぶ姿勢で接している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、入居者の表情や言動から個々の思いや希望を把握するように努めている。さらに、それらの情報についてミーティング等で検討し、統一したケア実施に向けて取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で把握した思いや希望を担当者会議で協議して、その人らしく暮らせるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の遂行状況を評価しており、個人記録や申し送りなどによる状態の変化、および本人やご家族の要望に応じて都度に見直しが行われている。		

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や協力医療機関との連携を図り、ご家族に代わっての通院介助、入居者の状態に応じたサービス内容の変更など、柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望に応じて、これまでのかかりつけ医を継続している。受診に関しては、ご家族の協力を得ながら、状況に応じて通院介助、もしくは訪問診療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議での検討やご家族との話し合いを行った上で、重度化や終末期に対応する具体的な方針を定め、指針や同意書を作成している。既に話し合いを経て同意をいただいた方もある。職員に対しては、研修を実施して方針を周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者に対する言動など、日頃から管理者が中心となり点検しており、プライバシーを尊重した対応が見られる。記録類は適切に管理されており、個人情報に関する意識向上のための勉強会も行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールではなく、入居者の生活習慣に合わせて、起床時間や食事を始めるタイミングなどについては柔軟に対応している。		

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや苦手なもの、アレルギー、その日の健康状態などを把握して対応している。入居者との会話からメニューを決定したり、旬の食材を取り入れたりと楽しく食事ができるように取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者それぞれの生活パターンに沿って、入浴していただいている。入浴を拒まれる方に関しては、声かけなどに工夫しながら清潔が保持できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	下膳やお膳・テーブル拭き、洗濯物たたみなど入居者の状況を把握した上で、できることをやっていたいでいる。レクリエーションの内容などは、入居者と共に検討しながら実施している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前には公園があり、気軽に出かけることができる。通院の行き帰りの際も含めて、日常的にまた希望に応じて外出・散歩が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間等、防犯上の理由による場合を除き施錠していない。ご家族には施錠しないことについて十分に説明しており、納得していただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災設備会社および消防署の立会いのもとで、昼夜想定避難・消火訓練が行われ、消防設備点検も定期的に行われている。職員個々の防災に対する危機感が強く、訓練への積極的な取り組み姿勢が見られる。		

外部	自己	得座した	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者毎に摂取量が記録されている。病状的に摂取制限がある方や、通常の摂取量から大きく変動があった方などは、さらに細かい記録を行い、管理栄養士や医師の指導も受けながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の置物、リビング等には季節感のある職員手作りの色紙絵が飾られており、心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者がこれまで使ってきた寝具や日用品などが持ち込まれ、身体状況の変化に合わせて介護ベットを貸与したりと、心地よく過ごせるための支援を行っている。		